

同和問題 学習シリーズ⑦

『あぜみち』

わたしたちの身の回りと

同和問題

①ものの方・考え方を

人間らしく心豊かに生きたい、健康で明るく生きたいという願いを誰もがもち、少しでも身の回りのくらしを良くしたいと努力して

います。

しかし、日常生活に目をむけてみると、その人の責任のない、生まれた「場所」や「職業」などをとにして、人としての値うちが

全く違うようにいうことがあります。このことは、古くからの習慣や世間体にとらわれたくらし方やものの見方・考え方に影響されていることが多く、知らず知らずのうちに人の幸せを踏みにじっていることがあります。

そうしたこととは、今なお、同和問題を残していることのひとつともいえます。そこで同和問題を早く解決するため、わたしたちのものの見方・考え方を直してみましょう。

②世間体というものが

ものごとを決めたり、判断するときに、わたしは良いのだが周りの人がどう思うだろうかと思いがちむことがあります。世間で良くな

いとか悪いとか言っているのだから、やめておく方が無難だ、といったことがよくあります。

「世間体」に顔合わせできない「世間」に申し訳ない」とか、ともすれば、ものごとを判断するとき、人のうわさや近所の人や身内など、いわゆる「世間体」にとらわれて、ものごとを決めようとします。

集会などで、周りの人たちが気にかけて、お互いの意見が十分に出来ない場合があります。それは、お互いに相手を言い負かす議論のしかたであったり、議論に負けると「恥」という考えが働いたり、自分の体面を重んじ、いつも他の人に寄りかかったものになりがちです。したがって、理屈に合わない

③今こそ、わたしたちは

わたしたちが求める社会は、一人一人がしっかりとしたものの方・考え方をもちとともに、お互いに手をとりあって幸せに暮らせる豊かな地域社会です。ただ単に権利だけを主張するのではなく、それぞれの立場を尊重して、地域全体の豊かさを求めることが、これから目ざす近代化された豊かな地域づくりであるといえましょう。

会 人 婦 女
連 合 会
市 総 会

婦人の力で

明るい選挙を推進

明るい地域づくりを目ざして、積極的な活動続ける市連合婦人会（西森律会長）の総会が四月二十八日、市役所大会議室で行われました。

まず審議に先立ち、鈴江教育長が、「婦人会活動も社会の流れの中で、奉仕、レクリエーション、行事中心から、経済、教育、健康

の問題など、社会へ大きく目を開いた活動に変化してきました。しかし基本は、社会教育団体として、勉強をしていく団体という原点を忘れずに、これからもそれぞれの運動に積極的に取り組んで欲しい」とあいさつ。

その後、五十七年度事業報告、秋の市議選を前に、選挙を中心に

今年には選挙の当たり年で、婦人会活動でも、明るい選挙の啓発運動に向けて、積極的に取り組んで行こうという気運が高まっています。

